

短 信

会長短信

政 志 郎

翔友会の皆様にはお変わりございませんか。

バブル崩壊後日本の失われた15年が過ぎ、明るい兆しと社会構造の変革による新しい挑戦の萌芽が見えてきました。喜ばしいことと思います。

現役の諸君もここ数年部員数も増え、25人となりました。3～4年生のリーダーシップで諸問題もなくなり、滑空技術の向上をどのようにして伸ばすか、部員にどのようなモチベーションさせるかが課題であり、本来の航空部の姿に再生しつつあります。大変喜ばしいことです。

今年は全本学生グライダー競技選手権大会に中村兵馬(4年)・前田賢一(3年)両君が出場します。今年早々にオーストラリアでのソアリングトレーニングに遠征し、技量向上に向けて励んでくれました。翔友会として海外遠征の支援を僅かではありますが援助させてもらいました。今年の選手権は希望と期待の持てる大会になりそうです。

西暦2011年に同志社大学航空部創立75周年を迎えます。新庄委員長・松岡事務局長を中心に、幹事、役員が精力的に活動して頂いており、その概要と翔友会会員の働きについてのお話をします。

75周年事業のコンセプトは「温故知新・老壮青学・夢を繋ぐ」と決め、実行委員会規約の制定を行い、運営組織の概要を決めました。

一方、森川監督は航空部中長期強化戦略を立案し、コーチ陣を交えて各主要課題の具体的戦術を展開して頂いております。部員の確保は気を許せませんが現役の士気から見て、やってくれるでしょう。

操縦技術と機材の充実が戦力強化の大きな課題となってきた。関東・関西の各大学は高性能機の

拡充をさせつつあり、現役学生からも要望されている。技量の向上を目指して、数少ない合宿で効率的な練習方法について監督・コーチ・学生で喧々諤々の論議と情報の共有化を進めて頂いております。

今、同志社航空部75周年委員会は活性化に向け燃えております。新庄委員長の行動理念を実現化のため、課題達成の各項目の具体的な戦術を今年前半までに纏めて皆様に情報発信するとともに、情報の共有化を進めます。

記念事業としては、全国制覇に向け、高性能機、ユーティリティ設備の充実、記念誌の発行、75年に亘り支援して頂いた関係者を含めた祝賀会の開催等々が素案に出ています。

これらの行事達成には多大な費用が発生すると思われまじ、この目的を達成する労力は大変な力が必要になります。各実行委員は夢の実現化に向け全知全霊を傾けて邁進して頂けるような風土を作り上げてゆこうと思っております。

皆様には記念事業計画を適宜発信して共有化を図り、ご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

部長 短 信

山 口 博 司

グライダー競技は、パイロット一人のできるものではありません。

まず基本的には、機体を空に持っていかねばなりません。ウインチで巻き上げる方法、曳航機で引き上げる方法、いずれにせよ、綿密なサポートがあり初めて競技なり訓練ができる分けです。

また、機体は常にベストな状態にしておかねば、競技、練習は言うに及ばず、安全に関わる重大事でもあります。このように、グライダースポーツは、パイロットの技量のほか、多くの人の協力を軸とした組織力が大きくものを言うスポーツであります。勝てる、強いチームを作ることは、とりもなおさず強い組織を作ることでもあります。今は、部員25名を有する発展途上にあるクラブとして、これから組織力の充実が望まれるところであります。明るくて、すがすがしい、一人一人がそれぞれの役割に輝くような個を持つ組織に育て上げたものです。

今年は、2名の選手を全国大会に送り出すことが出来ました。また、これに係わり、翔友会皆様には兩名をオーストラリア海外訓練に送りだすご援助を賜り、真に感謝いたしています。兩名の全国大会の活躍を期待いたしますとともに、皆様のご声援を賜りますようお願い申し上げます。このような明るい出来事と活力が後輩部員に伝承されることはまた喜びでもあります。

今後とも、部員の充実と選手の強化に努めてまいります。翔友会のOB、OGの皆様にかかれましても、益々のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

監督短信

森 川 泰

今年は同志社航空部にとって一つの節目となる年ではなかったかと思います。現役部員は25名となり、クラブ活動の内容も充実しつつあります。合宿も同志社主体で運営出来る様にもなって来ました。クラブ活動の基礎は整って来ました。戦績も、同立戦では残念ながら連覇することは出来ませんでした。東海関西競技会では3年生の前田君が個人準優勝し団体でも4位となり、6年ぶりの全国大会への切符を手に入れました。全国大会では今一つ実力を発揮出来ずに終わってしまい残念でしたが、来年に繋がる経験を積むことが出来たと確信しております。これからはこの基礎をより強固なものとしつつ、更に飛躍して行く段階になって行くでしょう。

この様にクラブ活動に活気が出てきた今、これから同志社航空部を飛躍させて行く為にどの様なクラブにして行かなければならぬかを私なりに考え、三つのことが頭に浮かびました。この三つのことを目指して頑張っていけば、同志社らしい、皆が誇りを持つクラブになるのではないかと思います。まず一つ目は、競技会で勝てるクラブにすることです。これは改めて言うまでもないことですが、再認識しておきたいことです。体育会の一員としては、競技会で結果を出して行かなければなりませんし、やはり勝利を味わうことは嬉しいことだと思います。同立戦はもちろんのこと、全国大会でも好成績を残し、いつかは優勝を勝ち取りたいものです。実際に競技に出場する選手は限られた部員となりますが、同志社の全員が一丸となって向かって行かなければならぬ目標です。二つ目は、飛ぶことを楽しめるクラブです。競技会に向けてソアリングの技術を高めて行くことは大切なことですが、グライダーはただ純粹に飛ぶことを楽しむことも出来るスカイスポー

ツです。先程も述べた様に競技会に出場出来る部員は限られています。まず、部員全員が純粹に飛ぶことに楽しみを感じ、その上で部員同士が競い合い、技量を高め合って行き、その結果として優秀な選手が出てくるのが理想ではないでしょうか。最後に三つ目は、学業とクラブ活動を両立出来るクラブです。これは体育会などのクラブでも同じだと思いますが、限られた時間と資金の中で両立することは大変なことですし、完璧に両立することは至難の業と言えるでしょう。しかし、卒業してOBとなり学生時代を振り返った時に悔いを残さない為にも、学生諸君にはクラブ活動も頑張っ

て欲しいですし、学業にも頑張っ

て欲しいと思

います。学業とクラブ活動の両立は個人の努力によるところが大きいです

が、少しでも両立し易い環境を作っていかなければならないと思

います。

この三つのことを目指して頑張っ

て行くには、

学生諸君の努力が大事です。しかし、その学生の頑張りを支えるOBの皆さんの力も不可欠です。そのOBの皆さんの力添えとして、今年

は全国大会へ出場する二名の学生に対し、オーストラリアでの海外研修の費用の一部と全国大会出場の為の費用の一部を援助して頂きました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。全国大会に向けて選手にオーストラリアでソアリングの経験を積ませるのは初めての試みでしたので、十分な結果は出せませんでした

が、この様な試みは継続して行きたいと思

いますので、今後ともご支援を宜しくお願

い致します。

また新たな一年が始まります。新人を迎え、一段とパワーアップした同志社航空部にして行く為に監督として努力したいと思

いますので、学生諸君、OBの皆さん、力を合わせて頑張っ

て行きま

しょう。

75周年まで、あと4年

75周年実行委員会委員長 新庄博志

創部75周年に向けて

月日の過ぎるのは早いもので、翔友会総会で突然に創部75周年の実行委員長のご指名を頂いたのが2年前。私と松岡を実行委員長、事務局長にご承認頂いたのが昨年。そして今年はようやく組織の承認に漕ぎ着けました。何をのろのろしているのか！と、お叱りを受けるかも知れませんが、以下の通り進めて参りましたので、報告をもってお許し下さい。

誰がするの？

75周年の実施主体は何処にするのか、まずこれを決めねばなりません。50周年の時は翔友会というOBの皆様のご活躍で、あれだけの事業を展開されました。「本来ならば現役がするべきところ」を、という声も洩れ聞こえましたが、当時現役であった私は、実際には先輩の皆様のお膳立てで、周年の事業に参加した記憶があります。

今回、実行委員長を拝命した時点で、現役もOBも皆が参画する組織を思い浮かべました。山口部長先生にもご相談したところ、現役の日常活動に加えて、OB達と事業することは時間的にも大変だけれども、学生も色んなことを吸収できるので、是非とも、励ましの言葉を賜り、老若男女皆が隔たり無く参加してもらおうこととしました。

準備委員会の開催

最初から実行委員会を組織すれば早かったのかも知れませんが、この1年は準備委員会として活動しました。政会長を中心に、近隣のOBの方々にお声がけし、2ヶ月に一度田辺に集い議論を深めました。現役は面倒がるかと思っていましたが、積極的に参加してくれたことは励みとなりました。

その中で、まず皆さんに私の気持ちを解って頂きことが肝要と思い、事業の中味よりもコンセプトを繰り返し話しました。①温故知新、②老壯青学、③夢を繋ぐ、です。昨年の翔友でも述べましたが、周年の機軸は温故知新です。先輩方の活躍や当時の思い出を整理することによって、新しい感動に触れることは、これからの活動の糧になります。

若手が頑張っていて、という言葉をよく耳にしました。しかし、20年前ならいざ知らず、昨今の社会の中で、定年を越えられた方々の若々しいご活躍には目を見張るものがあります。ジェネレーションのギャップを、互いに認め合える関係に変えることが出来れば、今後の活動の大きな力になります。

そして、この周年を先輩の皆さんのためにする、というのは気が重たい。自分のためにする、というのもあまりに寂しい。空を飛びたいという純粋でストレートな若者が、このクラブの門を叩いた時、「ようこそ」と両腕を拡げていてほしい。我々の青春時代と同じ心をつなぐ夢を見てこそエネルギーが湧く。

リトリートセンター

大津市北小松に同志社大学の宿泊施設があります。安価で泊まれ、環境はこの上なく、設備も充実しているので、現役とOBの交流に是非使ってみれば、と山口先生からご紹介を頂き、10月21、22日に研修会を実施しました。

現役もほぼ全員が参加し、準備委員会のメンバーとともに、問題点の整理や将来について議論し合い、夜半はお酒も酌み交わしながら歓談しました。私は今までは教官でしたので、現役にはものを伝えるだけの一方通行でしたが、役が変わっ

て付き合ってみると、共感することも多いものです。随分とリフレッシュした気持ちになったのは、私だけではないと思います。次回は夏にバーベキューを!という政会長の思いもあり、是非二度目を実施したいと思います。今年は皆様にもご案内しますので、是非ご家族でお越し下さい。

75周年記念バッヂ

社章や校章を付けて集うと、不思議と仲間意識が芽生えるものです。50周年の時に作成されたネクタイは、25年経った今も現役です。今回は徽章のデザインを学生に任せました。学生も自分達の思いが形になると、主体者である実感も湧いたことでしょう。写真の通りなかなかの出来栄えて、総会後の懇親会で飛ぶように?売れました。

このバッヂは周年の寄付金を頂いた皆様に御礼としてお渡ししようと思っています。その内ご案内致しますので、その節はよろしくお願い致します。



75周年実行委員会の設立

2月の翔友会総会で、実行委員会の規約と組織構成、職務分掌をご承認頂きました。これで晴れて75周年に向け、実務的に進むことになりました。

私と共に役職に携わって頂ける方も決まり、(よろしく申し上げます)5月には第一回の実行委員会役員会を開催する予定です。今年中に、先ずは全体予算を考え、それに見合う収入源を確保してゆかなければなりません。事業も自己満足にならないよう、多くの方を巻き込んだ開放的なものにして行きたいと思います。是非色んなアイデアをお聞かせ願いたいと思います。

最近テレビの告知コマーシャルで地デジの切り替え案内をよく耳にします。「2011」我々の周年と同じ年です。時間があるようですが、実はもう間近に迫っています。今年一年でしっかりと足元を固めたいと思います。

ライフワークバランス

最近世間で「ライフワークバランス」という言葉を聞くようになりました、仕事と家庭、暮らしのバランスを考えながら生きて行こうというものです。何も仕事の時間を削って趣味に生きよう!というものではありません。仕事と自分の時間が充実することが相乗効果を生み出し、生産性も上がり、生き生きと生きて行ける、というものです。社会に出るとどうしても仕事に家庭に、忙しい毎日と思いますが、どうぞ航空部にもう一度係わることによって新しい生活の扉を開けてみませんか?少しでも余分な時間がある方、何かに挑戦してみようと思われている方、実行委員会では皆さんの参画をお待ちしています。